

平成 30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	村民総ぐるみの見まもり隊企画
事業主体 (連絡先)	木島平村学校運営協議会 (木島平村教育委員会内 コミュニティー・スクール推進コーディネーター関 孝志)
事業区分	その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	425,520 円 (うち支援金 : 319,000 円)

事業内容

○子どもにとって安全で、安心して暮らせる地域社会の実現のため、村民総ぐるみで日常的な子どもの見守り活動をする「見まもり隊」をつくった。
 ○住民による日常的な見守りやあいさつや声かけを通じた交流を促進するために「ながら見守り」を始めた。
 ○子どもの郷土愛の醸成を図ったり、子どもの出番を地域に作ったりするために中学生がデザインしたジャケットを制作し村民に配布し始めた。



【見まもり活動】

【目標・ねらい】

- ① 日常的に着られる見まもり隊ジャケット作成、配布
- ② あいさつや声かけによる日常的な交流
- ③ 住民の出番を学校教育に、子どもの出番を地域に作る契機づくり

事業効果

- ① 見まもり隊44名参加(2/28 現在) 自営業者や高齢者など自発的「ながら見守り」のスタート
- ② スクールバス停車場での見守り、保育園での見守りなど自主的な輪が広がっている。
- ③ 中学生デザインによるジャケットを作成した。
 - ・多くの村民や団体が実現に応援。 寄付金 106,520 円
 - ・中学生が、「役に立った」という自己有用感と、地域に対して「もっと役に立ちたい」という意欲を高めた。
 - ・入隊の問い合わせ増加 学校に自分の子どもがいなくなった住民にも出番ができた。
 - ・住民の出番を学校教育に、子どもの出番を地域に作る契機となった。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・効果的なアピールと中学生によるデザインにより地域内に浸透し、参加希望者、団体の問い合わせが増加中
- ・規約、要領ができたり、定期開催の学校運営協議会に連絡会が位置づいたりして課題解決のための持続可能な体制ができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

○毎月のコミュニティースクール推進委員会での調整連絡や年5回計画される学校運営協議会での連絡会などで継続性と拡大を図っていく。

○デザインの版ができたので安価に増量していけるようになった。また、寄付金など地域の参画を広げる契機となった。拡大と自立的運営を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある